

町小だより

令和2年
3月12日
No. 648
御免町小学校

静かに しかし 力強く

校長 藤井 聡

新型コロナウイルス感染拡大防止のためとは言え、1年間の総仕上げをする大切な時を逸したことの無念さは、当校職員のみならず、全国の教師に共通の思いであろうかと存じます。

子どもたちのいない学校で、子どもたちを思い、一方通行の全校一斉送信メールに思いを乗せ、発信することだけが、子どもたちや保護者の皆様とつながり続ける唯一の手段でした。健やかであれと念じるだけの日々が、これほど辛いものであるとは思いませんでした。

しかし、間もなく、第71回卒業証書授与式を迎えます。在校生も来賓もない卒業式ではありますが、1年で最も重要な学校行事を間近に控え、学校では、子どもたちが登校しているがごとく、準備を進めています。3月24日には、96名の卒業生がこの御免町小学校を巣立つ晴れ姿を心に刻みたいと思います。

令和元年度も終わろうとしています。1年間、あらゆる場面で、様々な方々にお世話になりました。御理解と御協力を賜ったこと、御支援いただいたこと、励ましていただいたこと、情報をお寄せいただいたこと等々、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

今、学校はとても静かです。子どもたちの声がしないというだけではありません。職員一人ひとりが、この1年間を振り返っているからです。・・・うまくいったこと、成長が見られたこと、伝えることができた思い・・・子どもたちと共に歩んできた成果をしみじみと感じています。しかし、その一方で・・・やり残したこと、やりきれなかったこと、届かなかった思い・・・まだ足りなかったことへの思いが、静かに浮かび上がってきます。

静かな時間が流れる学校で、来年度への準備は着々と進んでいます。来年度の御免町小学校のあるべき姿、進むべき方向を示した「グランドデザイン」は、間もなく完成します。そして、全職員で子どもたちを大切に育んでいこうという思いは高まっています。主役を失った学校にいるが故に、主役である子どもたちの大切さを痛感し、主役をさらに輝かせたいという思いが強くなっているのです。

静かに、しかし、力強く——このような苦しい状況に置かれた時こそ、慌てふためくのではなく、どっしりと地に足をつけて、やるべきことを冷静に考えることが必要です。そして、来るべき時に備えるのです。

子どもたちが登校できる日まで、もう少しだけ、子どもたちをお願いいたします。